

大学番号 065

注3

意見伺い (JD)

設置年度 令和 2年度

計画の区分： 研究科の専攻の設置又は課程の変更

注1

広島大学大学院 人間社会科学研究科 広島大学・グラーツ大学国際連携サステイナビリティ学専攻

注2

【意見伺い (JD)】 設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人広島大学
令和3年5月1日現在

作成担当者

担当部局 (課) 名 財務・総務室財務・総務部総務グループ

職名・氏名 シュン キタ ヨウコ
主任・北 陽子

電話番号 082-424-6014

(夜間) 082-424-6014

e-mail soumu@office.hiroshima-u.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
() 書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、調査対象大学等に対して別途発出する、事務連絡「令和3年度の履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

人間社会科学研究所

＜広島大学・グラーツ大学国際連携サステナビリティ学専攻＞		ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	10
4. 既設大学等の状況	11
5. 教員組織の状況	17
6. 附帯事項等に対する履行状況等	37
7. その他全般的事項	39

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人広島大学

【連携外国大学の設置者】 オーストリア共和国

(2) 大学名

広島大学

【連携外国大学の名称】

University of Graz (Universität Graz)

(3) 調査対象大学等の位置

〒739-8529

広島県東広島市鏡山一丁目5番1号

(本部：〒739-8511 広島県東広島市鏡山一丁目3番2号)

【連携外国大学の本部の位置】

Universitätsplatz 3, 8010 Graz, Austria

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
学長	(オチ ミツオ) 越智 光夫 (平成27年4月)		
研究科長	(コバヤシ シンイチ) 小林 信一 (令和2年4月)		
専攻長	(カネコ シンジ) 金子 慎治 (令和2年10月)	(イチハシ マサル) 市橋 勝 (令和3年4月)	変更理由：理事就任のため 変更年月日：令和3年4月1日 (3)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和2年度に報告済の内容 → (2)

令和3年度に報告する内容 → (3)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載してください。その場合別ファイルを作成し提出してください。
- ・ 様式は、平成29年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合(令和3年度までの5年間)ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
人間社会科学部 広島大学・グ ラーツ大学国際 連携サステイナ ビリティ学専攻 (修士課程) 修士(学術)	経済学関係	2年	2人 <420>	年次 人 -	4人 <840>		

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ < >内の数字は、母体となる学部等の全体の入学定員を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		平均入学定員 超過率	開設年度から 報告年度までの 平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	10月入学	その他の学期	10月入学	その他の学期			
A 入学定員	() []	() []	() []	() []	() []	() []	2 (-) [-]	人 (-) [-]	2 (-) [-]	人 (-) [-]	1.00倍	-	
志願者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	10 (-) [9]	- (-) [-]	7 (-) [7]	- (-) [-]			
受験者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	10 (-) [9]	- (-) [-]	7 (-) [7]	- (-) [-]			
合格者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	2 (-) [1]	- (-) [-]	2 (-) [2]	- (-) [-]			
B 入学者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	2 (-) [1]	- (-) [-]	2 (-) [2]	- (-) [-]			
入学定員超過率 B/A							1.00		1.00				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 「春季入学」、「その他の学期」については、各国際連携学科の入学時期に合わせて表を修正してください。
(例)「春季入学」→「4月入学」、「10月入学」等
- ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度(令和3年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学 年	対象年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	10月入学	その他の学期	10月入学	その他の学期	10月入学	その他の学期	
1年次	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	2 (-)	- (-)	2 (-)	- (-)	[2] (-)	[-] (-)	
2年次	/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	/		2 (-)	- (-)	[1] (-)	[-] (-)	
3年次	/		/		[] ()	[] ()	/		/		/		
4年次	/		/		/		/		/		/		
計	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	2 (-)		4 (-)		[3] (-)	[-] (-)	

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 「春季入学」、「その他の学期」については、各国際連携学科の入学時期に合わせて表を修正してください。
(例)「春季入学」→「4月入学」、「10月入学」等
 - ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成29年度	人	人	平成29年度	人	人	
平成30年度	人	人	平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
令和元年度	人	人	平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
令和2年度	2人	0人	平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	0人	0人	
令和3年度	4人	0人	平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	0人	0人	
			令和3年度	0人	0人	
合計		0人				

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成31年度の退学者数(a)}}{\text{平成31年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{2} = \boxed{0} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{4} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

＜人間社会科学研究科 広島大学・グラーツ大学国際連携サステナビリティ専攻＞

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
					必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
大学院共通科目 広島大学開設科目	Hiroshimaから世界平和を考える		1・2 ①②③	広島大学	1			1					兼4	
	Japanese Experience of Social Development-Economy, Infrastructure, and Peace		1・2 ②	広島大学	1		1						兼6	
	Japanese Experience of Human Development-Culture, Education, and Health		1・2 ④	広島大学	1		2						兼4	
	ダイバーシティの理解		1・2 ②	広島大学	1								兼4	
	データリテラシー		1・2 ①②	広島大学	1								兼2	
	医療情報リテラシー		1・2 ③	広島大学	1								兼9	
	人文社会系キャリアマネジメント		1・2 ②③	広島大学	2								兼1	
	理工系キャリアマネジメント		1・2 ②	広島大学	2								兼1	
	ストレスマネジメント		1・2 ②④	広島大学	2								兼1	
	MOT入門		1・2 ①③	広島大学	1								兼1	
	アントレプレナーシップ概論		1・2 ①	広島大学	1								兼1	
	小計 (11科目)				0	14	0	3	1	0	0	0	0	兼32
	データビジョンA		1・2 後	広島大学	1								兼1	
	データビジョンB		1・2 後	広島大学	1								兼1	
	環境原論A		1・2 後	広島大学	1								兼1	
環境原論B		1・2 後	広島大学	1								兼1		
小計 (4科目)				0	4	0	0	0	0	0	0	0	兼2	
リサーチメソッド		①③	広島大学	2									兼1	
社会科学のための数理・計量分析		1③	広島大学	2									兼1	
調査方法論基礎		1③	広島大学	2									兼1	
持続可能な発展論基礎		1後	広島大学	2									兼1	
小計 (4科目)				0	8	0	0	0	0	0	0	0	兼4	
グラーツ大学開設科目	The Sustainability Challenge		1後	グラーツ大学	1.5			1						
	Sustainable Development - Integrating Perspectives		1後	グラーツ大学	5					1				
	Social competences for working in inter- and transdisciplinary teams		1後	グラーツ大学	1				1					
	Methods for inter- and transdisciplinary problem-solving		1後	グラーツ大学	1				1					
	Data in System Sciences		1後	グラーツ大学	1.5			1						
小計 (5科目)				0	10	0	1	1	2	1	0			
Sociology	開発ミクロ経済学I		1③	広島大学	2		1	1						
	開発ミクロ経済学II		1④	広島大学	2		1	1						
	開発マクロ経済学I		1③	広島大学	2		1					兼1		
	開発マクロ経済学II		1④	広島大学	2		1					兼1		
	開発計量経済学 I		1①	広島大学	2			1				兼1		
	開発計量経済学 II		1②	広島大学	2			1				兼1		
	Geographic Information System Technology		1・2 ③	広島大学	2								兼1	
	経済統計分析論		1②	広島大学	2					1			兼1	
	グローバルガバナンス論		1③	広島大学	2								兼1	
	都市経済学		1②	広島大学	2								兼1	
	農村開発論		1③	広島大学	2		1						兼1	
	技術経営論		1①	広島大学	2			1					兼1	
	人的資源開発論		1④	広島大学	2			1					兼1	
	公共管理論		1④	広島大学	2			1					兼1	
経営組織論		1③	広島大学	2			1					兼1		
経営戦略論		1①	広島大学	2								兼1		
環境政策論		1③	広島大学	2								兼1		
都市政策論		1④	広島大学	2								兼1		

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
					必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
大学院共通科目 広島大学開設科目	Hiroshimaから世界平和を考える		1・2 ②③④	広島大学	1			1					兼9	
	Japanese Experience of Social Development-Economy, Infrastructure, and Peace		1・2 ②	広島大学	1		2						兼3	
	Japanese Experience of Human Development-Culture, Education, and Health		1・2 ④	広島大学	1		2						兼4	
	ダイバーシティの理解		1・2 前	広島大学	1								兼4	
	データリテラシー		1・2 ①②③④	広島大学	1								兼4	
	医療情報リテラシー		1・2 ③	広島大学	1								兼8	
	人文社会系キャリアマネジメント		1・2 ②前後	広島大学	2								兼3	
	理工系キャリアマネジメント		1・2 前	広島大学	2								兼1	
	ストレスマネジメント		1・2 前④	広島大学	2								兼2	
	MOT入門		1・2 ①前後	広島大学	1								兼1	
	アントレプレナーシップ概論		1・2 ①	広島大学	1								兼1	
	小計 (11科目)				0	14	0	4	1	0	0	0	0	兼38
	データビジョンA		1・2 後	広島大学	1								兼1	
	データビジョンB		1・2 後	広島大学	1								兼1	
	環境原論A		1・2 後	広島大学	1								兼1	
環境原論B		1・2 後	広島大学	1								兼1		
小計 (4科目)				0	4	0	0	0	0	0	0	0	兼2	
リサーチメソッド		①④	広島大学	2									兼2	
社会科学のための数理・計量分析		1③	広島大学	2									兼1	
調査方法論基礎		1③	広島大学	2									兼2	
持続可能な発展論基礎		1後	広島大学	2									兼1	
小計 (4科目)				0	8	0	0	0	0	0	0	0	兼6	
グラーツ大学開設科目	The Sustainability Challenge		1後	グラーツ大学	1.5					1				
	Sustainable Development - Integrating Perspectives		1後	グラーツ大学	5						1			
	Social competences for working in inter- and transdisciplinary teams		1後	グラーツ大学	1						1			
	Methods for inter- and transdisciplinary problem-solving		1後	グラーツ大学	1							1		
	Data in System Sciences		1後	グラーツ大学	1.5			1						
小計 (5科目)				0	10	0	1	1	2	1	0			
Sociology	開発ミクロ経済学I		1③	広島大学	2					1				
	開発ミクロ経済学II		1④	広島大学	2						1			
	開発マクロ経済学I		1③	広島大学	2			1					兼1	
	開発マクロ経済学II		1④	広島大学	2			1					兼1	
	開発計量経済学 I		1①	広島大学	2				1				兼1	
	開発計量経済学 II		1②	広島大学	2					1			兼1	
	Geographic Information System Technology		1・2 後	広島大学	2								兼1	
	経済統計分析論		1②	広島大学	2						1		兼1	
	グローバルガバナンス論		1③	広島大学	2								兼1	
	都市経済学		1②	広島大学	2								兼1	
	農村開発論		1④	広島大学	2		1						兼1	
	技術経営論		1④	広島大学	2			1					兼1	
	人的資源開発論		1②	広島大学	2						1		兼1	
	公共管理論		1後	広島大学	2							1	兼1	
経営組織論		1後	広島大学	2						1		兼1		
経営戦略論		1前	広島大学	2								兼1		
環境政策論		1③	広島大学	2								兼1		
都市政策論		1④	広島大学	2								兼1		

学開設科目	科目名	履修条件	単位数	単位取得	履修人数	履修率	履修人数	履修率	履修人数	履修率	履修人数	履修率		
学開設科目	国際協力論	1① 広島大学	2	1										
	労働政策論	1② 広島大学	2	1	1									
	国際金融論	1② 広島大学	2	1										
	演習A	1後 広島大学	2	6	4									
	演習B	1前 広島大学	2	6	4									
	小計(23科目)	—	0	46	0	6	4	0	0	0	0	67		
	専門科目	International Environmental Cooperation Studies	1-2 ① 広島大学	2	1									
		演習C	2後 広島大学	2	6	4								
		小計(8科目)	—	0	16	0	6	4	0	0	0	0	11	
		専門科目	Environmental and Technology Assessment	1後 グラーツ大学	2			1						
			Waste and Recycling	1後 グラーツ大学	2			1						
Environmental Decision Making			1後 グラーツ大学	2			1							
Seminar for Data in System Sciences			1後 グラーツ大学	2		1								
Renewable Resources - Chemistry and Technology I			1後 グラーツ大学	1										
Renewable Resources - Chemistry and Technology II	1後 グラーツ大学		1											
Earth's Climate System and Climate Change	1後 グラーツ大学		1.5		1									
Strategic Sustainability Management	1前 グラーツ大学		2			1								
Sustainability Entrepreneurship	1前 グラーツ大学		2			1								
Eco-Controlling	1前 グラーツ大学		2			1								
Sustainable Innovation	1前 グラーツ大学		2			1								
Product and Service Development	1前 グラーツ大学		2			1								
Value Chain Management	1前 グラーツ大学		2			1								
Research Project Sustainability Management	1前 グラーツ大学		3			1								
Sustainability and Environmental Management	1前 グラーツ大学		2			1								
小計(15科目)	—	0	28.5	0	2	1	4	2	0	0	62			
専門科目	Inter- and Transdisciplinary Case Study on Sustainable Development	2後 グラーツ大学	5			1								
	Social competences for managing sustainable development	2後 グラーツ大学	1.5			1								
	Master seminar	2後 グラーツ大学	1		3	1								
小計(3科目)	—	0	7.5	0	3	1	1	1	0	0	0			
関係する論文目録	修士論文	1~2 広島大学	15		6	4								
	Master Thesis	1~2 グラーツ大学	15		3	1	1	2						
	小計(2科目)	—	0	30	0	9	5	1	2	0	0	63		
合計(75科目)	—	0	164	0	10	5	5	2	0	0	148			

卒業要件及び履修方法
(国際連携専攻/連携外国大学の修了要件)
修了に必要な単位数を60単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、修士論文及び最終試験に合格すること。

- 修了要件単位数: 60単位
- ・そのうち、広島大学から30単位以上、グラーツ大学から30単位以上修得すること

○広島大学をホーム大学とする学生の修了要件単位数は以下のとおり

【広島大学開設科目】

- ・ベシック科目: 10単位以上
- 大学院共通科目(持続可能な発展科目): 1単位以上
- 大学院共通科目(キャリア開発・データリテラシー科目): 1単位以上
- 研究科共通科目: 2単位以上
- 基礎科目: 6単位以上(「持続可能な発展論基礎」は必修)
- ・専門科目: 4単位以上(「演習A」は必修)
- ・広島大学が開設する科目: 1単位以上
- ・修士論文に関する科目: 15単位以上
- 修士論文: 15単位

【グラーツ大学開設科目】

- ・専門科目: 20.5単位以上
- Specialization 科目: 13単位以上
- (「Strategic Sustainability Management」, 「Sustainability Entrepreneurship」, 「Eco-Controlling」, 「Sustainable Innovation」, 「Research Project Sustainability Management」, 「Sustainability and Environmental Management」は必修。)
- Integration科目: 7.5単位以上
- (「Inter- and Transdisciplinary Case Study on Sustainable Development」, 「Social competences for managing sustainable development」, 「Master seminar」)

学開設科目	科目名	履修条件	単位数	単位取得	履修人数	履修率	履修人数	履修率	履修人数	履修率	履修人数	履修率	
学開設科目	国際協力論	1前 広島大学	2	1									
	労働政策論	1③ 広島大学	2	1	1								
	国際金融論	1② 広島大学	2	1									
	公共経済論	1③ 広島大学	2										
	農業生産経済分析	1③ 広島大学	2										
	演習A	1後 広島大学	2	6	4								
	演習B	1前 広島大学	2	6	4								
	小計(25科目)	—	0	60	0	6	4	0	0	0	0	68	
	専門科目	International Environmental Cooperation Studies	1-2 ① 広島大学	2			1						
		演習C	2後 広島大学	2			6	4					
		小計(8科目)	—	0	16	0	6	4	0	0	0	0	17
専門科目		Environmental and Technology Assessment	1後 グラーツ大学	2			1						
		Waste and Recycling	1後 グラーツ大学	2			1						
		Environmental Decision Making	1後 グラーツ大学	2			1						
		Seminar for Data in System Sciences	1後 グラーツ大学	2			1						
		Renewable Resources - Chemistry and Technology I	1後 グラーツ大学	1									
	Renewable Resources - Chemistry and Technology II	1後 グラーツ大学	1										
	Earth's Climate System and Climate Change	1後 グラーツ大学	1.5			1							
	Strategic Sustainability Management	1前 グラーツ大学	2			1							
	Sustainability Entrepreneurship	1前 グラーツ大学	2			1							
	Eco-Controlling	1前 グラーツ大学	2			1							
	Sustainable Innovation	1前 グラーツ大学	2			1							
	Product and Service Development	1前 グラーツ大学	2			1							
	Value Chain Management	1前 グラーツ大学	2			1							
	Research Project Sustainability and Innovation Management	1前 グラーツ大学	3			1							
	Sustainability and Environmental Management	1前 グラーツ大学	2			1							
小計(15科目)	—	0	28.5	0	2	1	4	2	0	0	62		
専門科目	Inter- and Transdisciplinary Case Study on Sustainable Development	2後 グラーツ大学	5			1							
	Social competences for managing sustainable development	2後 グラーツ大学	1.5			1							
	Master seminar	2後 グラーツ大学	1		3	1							
小計(3科目)	—	0	7.5	0	3	1	1	1	0	0	0		
関係する論文目録	修士論文	1~2 広島大学	15		6	4							
	Master Thesis	1~2 グラーツ大学	15		3	1	1	2					
	小計(2科目)	—	0	30	0	9	5	1	2	0	0	63	
合計(77科目)	—	0	168	0	10	5	6	2	0	0	164		

卒業要件及び履修方法
(国際連携専攻/連携外国大学の修了要件)
修了に必要な単位数を60単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、修士論文及び最終試験に合格すること。

- 修了要件単位数: 60単位
- ・そのうち、広島大学から30単位以上、グラーツ大学から30単位以上修得すること

○広島大学をホーム大学とする学生の修了要件単位数は以下のとおり

【広島大学開設科目】

- ・ベシック科目: 10単位以上
- 大学院共通科目(持続可能な発展科目): 1単位以上
- 大学院共通科目(キャリア開発・データリテラシー科目): 1単位以上
- 研究科共通科目: 2単位以上
- 基礎科目: 6単位以上(「持続可能な発展論基礎」は必修)
- ・専門科目: 4単位以上(「演習A」は必修)
- ・広島大学が開設する科目: 1単位以上
- ・修士論文に関する科目: 15単位以上
- 修士論文: 15単位

【グラーツ大学開設科目】

- ・専門科目: 20.5単位以上
- Specialization 科目: 13単位以上
- (「Strategic Sustainability Management」, 「Sustainable Business Models」, 「Sustainability Controlling and Management」, 「Sustainable Innovation」, 「Research Project Sustainability and Innovation Management」, 「Sustainability and Environmental Management」は必修。)
- Integration科目: 7.5単位以上
- (「Inter- and Transdisciplinary Case Study on Sustainable Development」, 「Social competences for managing sustainable development」, 「Master seminar」)

は必修)

- ・ グラーツ大学が開設する科目：9.5単位以上

○ グラーツ大学をホーム大学とする学生の要修得単位数は以下のとおり

【グラーツ大学開設科目】

- ・ ベーシック科目：10単位以上
- （「The Sustainability Challenge」, 「Sustainable Development - Integrating Perspectives」, 「Social competences for working in inter- and transdisciplinary teams」, 「Methods for inter- and transdisciplinary problem-solving」, 「Data in System Sciences」

は必修)

- ・ 専門科目：2単位以上
- －Specialization科目：2単位以上
- ・ グラーツ大学の開設科目：3単位以上
- ・ 修士論文に関する科目：15単位以上
- －Master Thesis：15単位

【広島大学開設科目】

- ・ 専門科目：22単位以上
- －Specialization科目：15単位以上（「演習B」は必修）
- －Integration科目：7単位以上（「演習C」は必修）
- ・ 広島大学が開設する科目：8単位以上

は必修)

- ・ グラーツ大学が開設する科目：9.5単位以上

○ グラーツ大学をホーム大学とする学生の要修得単位数は以下のとおり

【グラーツ大学開設科目】

- ・ ベーシック科目：10単位以上
- （「The Sustainability Challenge」, 「Sustainable Development - Integrating Perspectives」, 「Social competences for working in inter- and transdisciplinary teams」, 「Methods for inter- and transdisciplinary problem-solving」, 「Data in System Sciences」

は必修)

- ・ 専門科目：2単位以上
- －Specialization科目：2単位以上
- ・ グラーツ大学の開設科目：3単位以上
- ・ 修士論文に関する科目：15単位以上
- －Master Thesis：15単位

【広島大学開設科目】

- ・ 専門科目：22単位以上
- －Specialization科目：15単位以上（「演習B」は必修）
- －Integration科目：7単位以上（「演習C」は必修）
- ・ 広島大学が開設する科目：8単位以上

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号（その2の1）に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て（兼任、兼任教員が担当する科目を含む。）を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「（未開講）」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度（令和元年度開設であれば平成30年度）の表は適宜削除してください。
- (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) 一②授業科目表に関する変更内容

【令和3年度】

○広島大学開設科目

【大学院共通科目】

- ・学生の履修機会の確保及び授業科目の充実のため、「Hiroshimaから世界平和を考える」の配当年次を「1・2①②④」から「1・2②③④」に、専任教員等の配置を「准教授1、兼任・兼任4」から「准教授1、兼任・兼任9」に変更。
- ・担当教員の見直しにより、「Japanese Experience of Social Development- Economy, Infrastructure, and Peace」の専任教員等の配置を「教授1、兼任・兼任6」から「教授2、兼任・兼任3」に変更。
- ・学生の履修機会を増やすため、「ダイバーシティの理解」の配当年次を「1・2②」から「1・2前」に変更。
- ・学生の履修機会を増やすため、「データリテラシー」の配当年次を「1・2①②」から「1・2①②③④」に、専任教員等の配置を「兼任・兼任2」から「兼任・兼任4」に変更。
- ・担当教員の見直しにより、「医療情報リテラシー」の専任教員等の配置を「兼任・兼任9」から「兼任・兼任8」に変更。
- ・学生の履修機会を増やすため、「人文社会系キャリアマネジメント」の配当年次を「1・2②③」から「1・2②前後」に、専任教員等の配置を「兼任・兼任1」から「兼任・兼任3」に変更。
- ・学生の履修機会を増やすため、「理工系キャリアマネジメント」の配当年次を「1・2②」から「1・2前」に変更。
- ・学生の履修機会を増やすため、「ストレスマネジメント」の配当年次を「1・2②④」から「1・2前④」に、専任教員等の配置を「兼任・兼任1」から「兼任・兼任2」に変更。
- ・学生の履修機会を増やすため、「MOT入門」の配当年次を「1・2①③」から「1・2①前後」に変更。

【基礎科目】

- ・教員の辞職、採用及び開講期の見直しにより、「リサーチメソッド」の配当年次を「1①・③」から「1①・④」に、専任教員等の配置を「兼任・兼任1」から「兼任・兼任2」に変更。
- ・教員の採用及び授業科目の充実のため、「調査方法論基礎」の専任教員等の配置を「兼任・兼任1」から「兼任・兼任2」に変更。

【Specialization科目】

- ・教員の辞職により、「開発ミクロ経済学I」の専任教員等の配置を「教授1、准教授1」から「教授0、准教授1」に変更。
- ・教員の辞職により、「開発ミクロ経済学II」の専任教員等の配置を「教授1、准教授1」から「教授0、准教授1」に変更。
- ・担当教員の見直しにより、「開発ミクロ経済学I」の専任教員等の配置を「教授1、兼任・兼任1」から「教授1、兼任・兼任0」に変更。
- ・担当教員の見直しにより、「開発ミクロ経済学II」の専任教員等の配置を「教授1、兼任・兼任1」から「教授1、兼任・兼任0」に変更。
- ・担当教員の見直しにより、「開発計量経済学I」の専任教員等の配置を「准教授1、兼任・兼任1」から「准教授1、兼任・兼任0」に変更。
- ・担当教員の見直しにより、「開発計量経済学II」の専任教員等の配置を「准教授1、兼任・兼任1」から「准教授1、兼任・兼任0」に変更。
- ・学生の履修機会を増やすため、「Geographic Information System Technology」の配当年次を「1・2③」から「1・2後」に変更。
- ・教員の専任配置に伴い、「経済統計分析論」の専任教員等の配置を「兼任・兼任1」から「教授1、兼任・兼任0」に変更。
- ・学生の履修機会の確保のため、「農村開発論」の配当年次を「1③」から「1④」に変更。
- ・学生の履修機会の確保のため、「技術経営論」の配当年次を「1①」から「1④」に変更。
- ・開講期の見直しにより、「人的資源開発論」の配当年次を「1④」から「1②」に変更。
- ・教員の辞職及び学生の履修機会の確保のため、「公共管理論」の配当年次を「1④」から「1後」に、専任教員等の配置を「教授1」から「教授0、准教授1」に変更。
- ・学生の履修機会を増やすため、「経営組織論」の配当年次を「1③」から「1後」に変更。
- ・学生の履修機会を増やすため、「経営戦略論」の配当年次を「1①」から「1前」に変更。
- ・学生の履修機会を増やすため、「国際協力論」の配当年次を「1①」から「1前」に、専任教員等の配置を「教授1」から「教授1、兼任・兼任1」に変更。
- ・教員の辞職及び学生の履修機会の確保のため、「労働政策論」の配当年次を「1②」から「1③」に、専任教員等の配置を「教授1、准教授1」から「教授0、准教授1」に変更。

・授業科目の充実のため、以下2科目を新規に追加。
 「公共経済論」（単位数：選択2単位／配当年次：1③／専任教員等の配置：兼任・兼任1）
 「農業生産経済分析」（単位数：選択2単位／配当年次：1③／専任教員等の配置：兼任・兼任1）

- ・教員の辞職に伴う専任教員の補充により、「演習A」の専任教員等の配置を「教授6、准教授4、兼任・兼任3」から「教授6、准教授4、兼任・兼任2」に変更。
- ・教員の辞職に伴う専任教員の補充により、「演習B」の専任教員等の配置を「教授6、准教授4、兼任・兼任3」から「教授6、准教授4、兼任・兼任2」に変更。

【Integration科目】

- ・教員の辞職に伴う専任教員の補充により、「フィールドワーク」の専任教員等の配置を「教授6、准教授4、兼任・兼任3」から「教授6、准教授4、兼任・兼任2」に変更。
- ・教員の辞職に伴う専任教員の補充により、「グローバルインターンシップ」の専任教員等の配置を「教授6、准教授4、兼任・兼任3」から「教授6、准教授4、兼任・兼任2」に変更。

・授業科目の充実のため、「Developing Designing Ability」の専任教員等の配置を「兼任・兼任2」から「兼任・兼任3」に変更。

- ・学生の履修機会を増やすため、「国際協力プロジェクト演習」の配当年次を「2後」から「2前後」に、専任教員等の配置を「兼任・兼任1」から「兼任・兼任3」に変更。
- ・授業科目の充実及び開講期の見直しのため、「国際公務員実務演習B」の配当年次を「2後」から「2前」に、専任教員等の配置を「兼任・兼任1」から「教授1、兼任・兼任3」に変更。
- ・担当教員の見直しにより、「International Environmental Cooperation Studies」の専任教員等の配置を「教授1、兼任・兼任10」から「教授0、兼任・兼任11」に変更。
- ・教員の辞職に伴う専任教員の補充により、「演習C」の専任教員等の配置を「教授6、准教授4、兼任・兼任3」から「教授6、准教授4、兼任・兼任2」に変更。

【修士論文に関する科目】

- ・教員の辞職に伴う専任教員の補充により、「修士論文」の専任教員等の配置を「教授6、准教授4、兼任・兼任3」から「教授6、准教授4、兼任・兼任2」に変更。

○グラーツ大学開設科目

【Specialization科目】

- ・「Sustainability Entrepreneurship」を「Sustainable Business Models」に名称変更。開講期の見直しにより、配当年次を「1前」から「1・2後」に、専任教員等の配置を「講師1」から「講師0、助教1」に変更。
- ・「Eco-Controlling」を「Sustainability Controlling and Management」に名称変更。
- ・「Research Project Sustainability Management」を「Research Project Sustainability and Innovation Management」に名称変更。

- (注) ・ 2(1)一① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 ・ 不要な年度(令和元年度開設であれば平成30年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

	設置時の計画				変更状況				備考
	必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
広島大学	0 科目	51 科目	0 科目	51 科目	0 科目 [0]	53 科目 [2]	0 科目 [0]	53 科目 [2]	
グラーツ大学	0 科目	24 科目	0 科目	24 科目	0 科目 [0]	24 科目 [0]	0 科目 [0]	24 科目 [0]	
共同開設科目	0 科目	0 科目	0 科目	0 科目	0 科目 [0]	0 科目 [0]	0 科目 [0]	0 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	開設大学	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	広島大学						該当なし
2	グラーツ大学						
3	共同開設科目						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。

(4) 廃止科目

番号	開設大学	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	広島大学						該当なし
2	グラーツ大学						
3	共同開設科目						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{75} = \boxed{}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
 ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考		
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体		
	校舎敷地	951,632㎡	0㎡	0㎡	951,632㎡			
	運動場用地	244,009㎡	0㎡	0㎡	244,009㎡			
	小 計	1,195,641㎡	0㎡	0㎡	1,195,641㎡			
	そ の 他	1,134,377㎡	0㎡	0㎡	1,134,377㎡			
	合 計	2,330,018㎡	0㎡	0㎡	2,330,018㎡			
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体		
		516,466㎡ (516,466㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	516,466㎡ (516,466㎡)			
(3) 教 室 等		講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設		
		56室	14室	19室	1室 (補助職員 9人)	6室 (補助職員 1人)		
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数			
		人間社会科学研究科広島大学・グラーツ大学国際連携サステイナビリティ学専攻			10 室			
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書	学術雑誌		視聴覚資料	機械・器具	標 本	
		[うち外国書]	[うち外国書]	電子ジャーナル				
	冊	種	[うち外国書]	点	点	点		
	人間社会科学研究科広島大学・グラーツ大学国際連携サステイナビリティ学専攻	3,460,673 [1,290,310] (3,460,673 [1,290,310])	59,366 [24,323] (59,366 [24,323])	5,723 [5,717] (5,723 [5,717])	5,034 (5,034)	14,306 (14,306)	133 (133)	
計	3,460,673 [1,290,310] (3,460,673 [1,290,310])	59,366 [24,323] (59,366 [24,323])	5,723 [5,717] (5,723 [5,717])	5,034 (5,034)	14,306 (14,306)	133 (133)		
(6) 図 書 館		面 積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数		大学全体	
		26,967㎡		2,369席	3,022,083冊			
(7) 体 育 館		面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要			大学全体	
		11,384㎡		野球場, 陸上競技場, サッカー・ラグビー場 外				
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円
	共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		千円	千円	千円	千円	千円	千円	
学生納付金以外の維持方法の概要								

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

※国際連携学科等に係る申請大学の状況を記載し、連携外国大学の状況は含めないでください。

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には報告年度5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	広島大学						学生募集停止学科数	78	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和3年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
総合科学部	4	160	—	640	—	1.06	1.06	—	昭和49	—	
総合科学科	4	120	—	480	学士(総合科学)	1.05	1.05	平成30	昭和49	広島県東広島市鏡山一丁目7番1号	
国際共創学科	4	40	—	160	学士(総合科学)	1.07	1.07	—	平成30	同上	
文学部	4	130	3年次10	540	—	1.05	1.05	—	昭和24	—	
人文学科	4	130	3年次10	540	学士(文学)	1.05	1.05	平成30	平成9	広島県東広島市鏡山一丁目2番3号	
教育学部	4	445	—	1,780	—	1.02	1.02	—	昭和24	—	
第一類(学校教育系)	4	157	—	628	学士(教育学)	1.01	1.01	平成30	平成12	広島県東広島市鏡山一丁目1番1号	
第二類(科学文化教育系)	4	82	—	328	学士(教育学)	1.01	1.02	平成30	平成12	同上	
第三類(言語文化教育系)	4	73	—	292	学士(教育学)	1.02	1.01	平成30	平成12	同上	
第四類(生涯活動教育系)	4	81	—	324	学士(教育学)	1.03	1.02	平成30	平成12	同上	
第五類(人間形成基礎系)	4	52	—	208	学士(心理学)	1.05	1.03	平成30	平成12	同上	
法学部	4	170	3年次20	720	—	1.05	1.03	—	昭和52	—	
法学科(昼間コース)	4	140	3年次10	580	学士(法学)	1.05	1.04	—	平成7	広島県東広島市鏡山一丁目2番1号	
(夜間主コース)	4	30	3年次10	140	学士(法学)	1.07	1.00	平成30	平成7	広島県広島市中央区千田一丁目1番9号	
経済学部	4	195	3年次10	800	—	1.04	1.00	—	昭和52	—	
経済学科(昼間コース)	4	150	3年次5	610	学士(経済学)	1.04	1.00	平成30	平成7	広島県東広島市鏡山一丁目2番1号	
(夜間主コース)	4	45	3年次5	190	学士(経済学)	1.01	1.00	平成30	平成7	広島県広島市中央区千田一丁目1番9号	
理学部	4	230	3年次10(学部共通)	940	—	1.04	1.02	—	昭和24	—	
数学科	4	47		188	学士(理学)	1.03	1.00	—	昭和24	広島県東広島市鏡山一丁目3番1号	
物理学科	4	66		264	学士(理学)	1.03	1.00	—	平成10	同上	
化学科	4	59		236	学士(理学)	1.04	1.05	—	昭和24	同上	
生物科学科	4	34		136	学士(理学)	1.06	1.08	—	平成5	同上	
地球惑星システム学科	4	24		96	学士(理学)	1.04	1.00	—	平成4	同上	
医学部	6	118	—	716	—	1.00	1.00	—	昭和28	—	
	4	120	—	480	—	1.02	1.05	—	平成4	—	
医学科	6	118	—	716	学士(医学)	1.00	1.00	令和2	昭和28	広島県広島市南区隈一丁目2番3号	入学定員変更(13)
保健学科											
看護学専攻	4	60	—	240	学士(看護学)	1.02	1.06	—	平成4	同上	
理学療法学専攻	4	30	—	120	学士(保健学)	1.01	1.06	—	平成4	同上	
作業療法学専攻	4	30	—	120	学士(保健学)	1.01	1.00	—	平成4	同上	
歯学部	6	53	—	318	—	1.00	1.00	—	昭和40	—	
	4	40	—	160	—	1.03	1.00	—	平成21	—	
歯学科	6	53	—	318	学士(歯学)	1.00	1.00	—	昭和40	広島県広島市南区隈一丁目2番3号	

口腔健康科学科														
口腔保健学専攻	4	20	—	80	学士(口腔健康科学)	1.03	1.00	—	平成21	同上				
口腔工学専攻	4	20	—	80	学士(口腔健康科学)	1.02	1.00	—	平成21	同上				
薬学部	6	38	—	228	—	1.04	1.05	—	平成18	—				
	4	22	—	88	—	1.08	1.04	—	平成18	—				
薬学科	6	38	—	228	学士(薬学)	1.04	1.05	—	平成18	広島県広島市南区隈一丁目2番3号				
薬科学科	4	22	—	88	学士(薬科学)	1.08	1.04	—	平成18	同上				
工学部	4	445	3年次15	1,810	—	1.03	1.03	—	昭和24	—				
第一類(機械システム工学系)	4	—	—	—	学士(工学)	—	—	—	平成13	広島県東広島市鏡山一丁目4番1号	平成30年度学生募集停止			
第二類(電気・電子・システム・情報系)	4	—	—	—	学士(工学)	—	—	—	平成13	同上	平成30年度学生募集停止			
第四類(建設・環境系)	4	—	—	—	学士(工学)	—	—	—	平成13	同上	平成30年度学生募集停止			
第一類(機械・輸送・材料・エネルギー系)	4	150	3年次5	610	学士(工学)	1.02	1.03	—	平成30	同上				
第二類(電気電子・システム情報系)	4	90	3年次3	366	学士(工学)	1.05	1.04	—	平成30	同上				
第三類(応用化学・生物工学・化学工学系)	4	115	3年次4	468	学士(工学)	1.00	1.02	平成30	平成13	同上				
第四類(建設・環境系)	4	90	3年次3	366	学士(工学)	1.06	1.03	—	平成30	同上				
生物生産学部	4	90	3年次10	380	—	1.08	1.04	—	昭和54	—				
生物生産学科	4	90	3年次10	380	学士(農学)	1.08	1.04	—	昭和54	広島県東広島市鏡山一丁目4番4号				
情報科学部	4	80	3年次5	330	—	1.07	1.05	—	平成30	—				
情報科学科	4	80	3年次5	330	学士(情報科学)	1.07	1.05	—	平成30	広島県東広島市鏡山一丁目4番1号				
大学全体	—	2,336	80	9,930	—	—	—	—	—	—				
人間社会科学研究所	前期2	420	—	840	—	0.86	0.69	—	令和2	—				
	後期3	135	—	270	—	0.82	0.70	—	令和2	—				
	専2	30	—	60	—	0.88	0.96	—	令和2	—				
	専3	20	—	40	—	0.82	0.75	—	令和2	—				
	修2	2	—	2	—	1.00	—	—	令和2	—				
人文社会科学専攻(博士課程)	前期2	257	—	514	修士(文学)	0.75	0.54	—	令和2	広島県東広島市鏡山一丁目2番3号				
					修士(心理学)									
					修士(法学)									
					修士(経済学)									
					修士(経営学)									
					修士(マネジメント)									
					修士(国際協力学)									
	後期3	85	—	170	修士(学術)									
					博士(文学)	0.65	0.54	—	令和2					
					博士(心理学)									
					博士(法学)									
					博士(経済学)									
					博士(経営学)									
					博士(マネジメント)									
					博士(国際協力学)									
					博士(学術)									
教育科学専攻(博士課程)	前期2	163	—	326	修士(教育学)	1.02	0.91	—	令和2	広島県東広島市鏡山一丁目1番1号				
					修士(教育心理学)									
					修士(国際協力学)									
	後期3	50	—	100	修士(学術)									
					博士(教育学)	1.12	0.98	—	令和2					
					博士(教育心理学)									
					博士(国際協力学)									
					博士(学術)									
教職開発専攻(専門職学位課程)	専2	30	—	60	教職修士(専門職)	0.88	0.96	—	令和2	広島県東広島市鏡山一丁目1番1号				

実務法学専攻 (専門職学位課程)	専3	20	—	40	法務博士(専門職)	0.82	0.75	—	令和2	広島県広島市中区東千田町一丁目1番69号	
広島大学・グラーツ 大学国際連携サステイ ナビリティ学専攻 (修士課程)	修2	2	—	4	修士(学術)	1.00	1.00	—	令和2	広島県東広島市鏡山一丁目5番1号	入学時期：10月
先進理工系科学研究科	前期2	449	—	898	—	1.12	1.09	—	令和2	—	
	後期3	128	—	256	—	0.66	0.50	—	令和2	—	
	修2	2	—	2	—	1.00	—	—	令和2	—	
先進理工系科学専攻 (博士課程)	前期2	449	—	898	修士(理学) 修士(工学) 修士(情報科学) 修士(国際協力学)	1.12	1.09	—	令和2	広島県東広島市鏡山一丁目4番1号	
	後期3	128	—	256	修士(学術) 博士(理学) 博士(工学) 博士(情報科学) 博士(国際協力学)	0.66	0.50	—	令和2	—	
広島大学・ライブ ツイヒ大学国際連携サ ステイナビリティ学専攻 (修士課程)	修2	2	—	4	修士(学術)	1.00	1.00	—	令和2	広島県東広島市鏡山一丁目5番1号	入学時期：10月
統合生命科学研究科	前期2	170	—	340	—	0.95	0.94	—	平成31	—	
	後期3	70	—	210	—	0.46	0.40	—	平成31	—	
統合生命科学専攻 (博士課程)	前期2	170	—	340	修士(理学) 修士(工学) 修士(農学)	0.95	0.94	—	平成31	広島県東広島市鏡山1丁目4番4号 広島県東広島市鏡山1丁目3番1号 広島県東広島市鏡山1丁目7番1号	
	後期3	70	—	210	修士(学術) 博士(理学) 博士(工学) 博士(農学) 博士(学術)	0.46	0.40	—	平成31	—	
医系科学研究科	博4	97	—	291	—	1.09	1.04	—	平成31	—	
	前期2	76	—	152	—	0.98	1.02	—	平成31	—	
	後期3	25	—	75	—	1.09	1.32	—	平成31	—	
医歯薬学専攻 (博士課程)	博4	97	—	291	博士(医学) 博士(歯学) 博士(薬学) 博士(学術)	1.09	1.04	—	平成31	広島県広島市南区霞一丁目2番3号	
総合健康科学専攻 (博士課程)	前期2	76	—	152	修士(医科学) 修士(歯科学) 修士(公衆衛生学) 修士(薬科学) 修士(看護学) 修士(保健学) 修士(口腔健康科学)	0.98	1.02	—	平成31	広島県広島市南区霞一丁目2番3号	
	後期3	25	—	75	修士(学術) 博士(医科学) 博士(歯科学) 博士(薬科学) 博士(看護学) 博士(保健学) 博士(口腔健康科学) 博士(学術)	1.09	1.32	—	平成31	—	
総合科学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
総合科学専攻 (博士課程)	前期2	—	—	—	修士(学術)	—	—	—	平成18	広島県東広島市鏡山一丁目7番1号	令和2年度学生募集停止
	後期3	—	—	—	博士(学術)	—	—	—	平成18	—	令和2年度学生募集停止
文学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
人文学専攻 (博士課程)	前期2	—	—	—	修士(文学)	—	—	—	平成13	広島県東広島市鏡山一丁目2番3号	令和2年度学生募集停止
	後期3	—	—	—	博士(文学)	—	—	—	平成13	—	令和2年度学生募集停止
教育学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
学習開発専攻 (博士課程)	後期3	—	—	—	博士(教育学) 博士(心理学) 博士(学術)	—	—	—	平成12	同上	平成28年度学生募集停止
文化教育開発専攻 (博士課程)	後期3	—	—	—	博士(教育学) 博士(心理学) 博士(学術)	—	—	—	平成12	同上	平成28年度学生募集停止

教育人間科学専攻 (博士課程)	後期3	—	—	—	博士(教育学)	—	—	—	平成12	同上	平成28年度学生募集停止
学習開発学専攻 (博士課程)	前期2	—	—	—	博士(心理学) 修士(教育学) 修士(心理学)	—	—	—	平成28	同上	令和2年度学生募集停止
教科教育学専攻 (博士課程)	前期2	—	—	—	修士(教育学) 修士(心理学) 修士(学術)	—	—	—	平成28	同上	令和2年度学生募集停止
日本語教育学専攻 (博士課程)	前期2	—	—	—	修士(教育学) 修士(心理学) 修士(学術)	—	—	—	平成28	同上	令和2年度学生募集停止
教育学専攻 (博士課程)	前期2	—	—	—	修士(教育学) 修士(心理学) 修士(学術)	—	—	—	平成12	同上	令和2年度学生募集停止
心理学専攻 (博士課程)	前期2	—	—	—	修士(教育学) 修士(心理学) 修士(学術)	—	—	—	平成12	同上	令和2年度学生募集停止
高等教育学専攻 (博士課程)	前期2	—	—	—	修士(教育学) 修士(心理学) 修士(学術)	—	—	—	平成28	同上	令和2年度学生募集停止
教育学習科学専攻 (博士課程)	後期3	—	—	—	博士(教育学) 博士(心理学) 博士(学術)	—	—	—	平成28	同上	令和2年度学生募集停止
社会科学部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
法政システム専攻 (博士課程)	前期2	—	—	—	修士(法学) 修士(学術)	—	—	—	平成16	広島県広島市緑山一丁目2番1号	令和2年度学生募集停止
	後期3	—	—	—	博士(法学) 博士(学術)	—	—	—	平成16		令和2年度学生募集停止
社会経済システム専攻 (博士課程)	前期2	—	—	—	修士(経済学) 修士(学術)	—	—	—	平成16	同上	令和2年度学生募集停止
	後期3	—	—	—	博士(経済学) 博士(学術)	—	—	—	平成16		令和2年度学生募集停止
マネジメント専攻 (博士課程)	前期2	—	—	—	修士(マネジメント)	—	—	—	平成12	広島県広島市中区東千田一丁目1番9号	令和2年度学生募集停止
	後期3	—	—	—	博士(マネジメント)	—	—	—	平成12		令和2年度学生募集停止
理学部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
数学専攻 (博士課程)	前期2	—	—	—	修士(理学)	—	—	—	昭和28	広島県広島市緑山一丁目3番1号	令和2年度学生募集停止
	後期3	—	—	—	博士(理学)	—	—	—	昭和28		令和2年度学生募集停止
物理科学専攻 (博士課程)	前期2	—	—	—	修士(理学)	—	—	—	昭和28	同上	令和2年度学生募集停止
	後期3	—	—	—	博士(理学)	—	—	—	昭和28		令和2年度学生募集停止
化学専攻 (博士課程)	前期2	—	—	—	修士(理学)	—	—	—	昭和28	同上	令和2年度学生募集停止
	後期3	—	—	—	博士(理学)	—	—	—	昭和28		令和2年度学生募集停止
生物科学専攻 (博士課程)	前期2	—	—	—	修士(理学)	—	—	—	昭和28	同上	平成31年度学生募集停止
	後期3	—	—	—	博士(理学)	—	—	—	昭和28		平成31年度学生募集停止
地球惑星システム学専攻 (博士課程)	前期2	—	—	—	修士(理学)	—	—	—	昭和28	同上	令和2年度学生募集停止
	後期3	—	—	—	博士(理学)	—	—	—	昭和28		令和2年度学生募集停止
数理分子生命理学専攻 (博士課程)	前期2	—	—	—	修士(理学)	—	—	—	平成11	同上	平成31年度学生募集停止
	後期3	—	—	—	博士(理学)	—	—	—	平成11		平成31年度学生募集停止
先端物質科学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
量子物質科学専攻 (博士課程)	前期2	—	—	—	修士(理学) 修士(工学) 修士(学術)	—	—	—	平成10	広島県広島市緑山一丁目3番1号	令和2年度学生募集停止
	後期3	—	—	—	博士(理学) 博士(工学) 博士(学術)	—	—	—	平成10		令和2年度学生募集停止
分子生命機能科学専攻 (博士課程)	前期2	—	—	—	修士(理学) 修士(工学) 修士(学術)	—	—	—	平成10	同上	平成31年度学生募集停止
	後期3	—	—	—	博士(理学) 博士(工学) 博士(学術)	—	—	—	平成10		平成31年度学生募集停止
半導体集積科学専攻 (博士課程)	前期2	—	—	—	修士(理学) 修士(工学) 修士(学術)	—	—	—	平成16	同上	令和2年度学生募集停止
	後期3	—	—	—	博士(理学) 博士(工学) 博士(学術)	—	—	—	平成16		令和2年度学生募集停止

医歯薬保健学研究所	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
医歯薬学専攻 (博士課程)	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
					博士(医学)	—	—	—	—	—	—	—
					博士(歯学)	—	—	—	—	—	—	—
					博士(薬学)	—	—	—	—	—	—	—
					博士(学術)	—	—	—	—	—	—	—
口腔健康科学専攻 (博士課程)	前期2 後期3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
					博士(口腔健康科学)	—	—	—	—	—	—	—
薬科学専攻 (博士課程)	前期2 後期3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
					修士(薬科学)	—	—	—	—	—	—	—
					博士(薬科学)	—	—	—	—	—	—	—
保健学専攻 (博士課程)	前期2 後期3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
					修士(看護学)	—	—	—	—	—	—	—
					修士(保健学)	—	—	—	—	—	—	—
					博士(看護学)	—	—	—	—	—	—	—
					博士(保健学)	—	—	—	—	—	—	—
工学研究所	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
機械システム工学専攻 (博士課程)	前期2 後期3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
					修士(工学)	—	—	—	—	—	—	—
					博士(工学)	—	—	—	—	—	—	—
機械物理工学専攻 (博士課程)	前期2 後期3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
					修士(工学)	—	—	—	—	—	—	—
					博士(工学)	—	—	—	—	—	—	—
システムサイバネティクス専攻 (博士課程)	前期2 後期3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
					修士(工学)	—	—	—	—	—	—	—
					修士(学術)	—	—	—	—	—	—	—
					博士(工学)	—	—	—	—	—	—	—
					博士(学術)	—	—	—	—	—	—	—
情報工学専攻 (博士課程)	前期2 後期3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
					修士(工学)	—	—	—	—	—	—	—
					修士(学術)	—	—	—	—	—	—	—
					博士(工学)	—	—	—	—	—	—	—
					博士(学術)	—	—	—	—	—	—	—
化学工学専攻 (博士課程)	前期2 後期3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
					修士(工学)	—	—	—	—	—	—	—
					博士(工学)	—	—	—	—	—	—	—
応用化学専攻 (博士課程)	前期2 後期3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
					修士(工学)	—	—	—	—	—	—	—
					博士(工学)	—	—	—	—	—	—	—
社会基盤環境工学専攻 (博士課程)	前期2 後期3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
					修士(工学)	—	—	—	—	—	—	—
					博士(工学)	—	—	—	—	—	—	—
輸送・環境システム専攻 (博士課程)	前期2 後期3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
					修士(工学)	—	—	—	—	—	—	—
					博士(工学)	—	—	—	—	—	—	—
建築学専攻 (博士課程)	前期2 後期3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
					修士(工学)	—	—	—	—	—	—	—
					博士(工学)	—	—	—	—	—	—	—
生物圏科学研究所	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
生物資源科学専攻 (博士課程)	前期2 後期3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
					修士(農学)	—	—	—	—	—	—	—
					修士(学術)	—	—	—	—	—	—	—
					博士(農学)	—	—	—	—	—	—	—
					博士(学術)	—	—	—	—	—	—	—
生物機能開発学専攻 (博士課程)	前期2 後期3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
					修士(農学)	—	—	—	—	—	—	—
					修士(学術)	—	—	—	—	—	—	—
					博士(農学)	—	—	—	—	—	—	—
					博士(学術)	—	—	—	—	—	—	—
環境循環系制御学専攻 (博士課程)	前期2 後期3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
					修士(農学)	—	—	—	—	—	—	—
					修士(学術)	—	—	—	—	—	—	—
					博士(農学)	—	—	—	—	—	—	—
					博士(学術)	—	—	—	—	—	—	—
医歯薬学総合研究所	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
創生医科学専攻 (博士課程)	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
					博士(医学)	—	—	—	—	—	—	—
					博士(歯学)	—	—	—	—	—	—	—
					博士(薬学)	—	—	—	—	—	—	—
					博士(学術)	—	—	—	—	—	—	—
国際協力研究所	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
開発科学専攻 (博士課程)	前期2 後期3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
					修士(学術)	—	—	—	—	—	—	—
					修士(工学)	—	—	—	—	—	—	—
					修士(農学)	—	—	—	—	—	—	—
					博士(学術)	—	—	—	—	—	—	—
					博士(工学)	—	—	—	—	—	—	—
					博士(農学)	—	—	—	—	—	—	—
教育文化専攻 (博士課程)	前期2 後期3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
					修士(学術)	—	—	—	—	—	—	—
					修士(教育学)	—	—	—	—	—	—	—
					博士(学術)	—	—	—	—	—	—	—
					博士(教育学)	—	—	—	—	—	—	—
法務研究所	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
法務専攻 (専門職学位課程)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
					法務博士(専門職)	—	—	—	—	—	—	—

大学院全体	-	1,624	-	3,440	-	-	-	-	-	-	
大学の名称	〇〇短期大学						学生募集停止学科数		平均入学定員超過率1.3倍以上の学科筆数		備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和3年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍				

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。(専攻科及び別科を除く)。なお、調査対象の学科等が設置されている大学から順に記載してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めず。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和3年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

(1) -① 担当教員表

<広島大学>

【認可時又は届出時】

【令和3年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 > 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	柿中 真 <令和2年4月> 博士(経済学) (米国)
		開発マクロ経済学I 開発マクロ経済学II 国際金融論 演習A 演習B 演習C フィールドワーク グローバルインター ンシップ 修士論文
専	教授	片柳 真理 <令和2年4月> (PhD in Law) (英 国)
		Japanese Experience of Social Development- Economy, Infrastructure, and Peace 演習A 演習B 演習C フィールドワーク グローバルインター ンシップ 修士論文

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 > 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	柿中 真 <令和2年10月> 博士(経済学) (米国)
		開発マクロ経済学I 開発マクロ経済学II 国際金融論 演習A 演習B 演習C フィールドワーク グローバルインター ンシップ 修士論文
専	教授	片柳 真理 <令和2年10月> (PhD in Law) (英 国)
		Japanese Experience of Social Development- Economy, Infrastructure, and Peace 演習A 演習B 演習C フィールドワーク グローバルインター ンシップ 国際公務員実務演習 B 修士論文

専	教授	関 恒樹 〈令和2年4月〉 博士（文学）	関 恒樹 〈令和2年10月〉 博士（文学）
		Japanese Experience of Human Development-Culture, Education, and Health 演習A 演習B 演習C フィールドワーク グローバルインターンシップ 修士論文	Japanese Experience of Human Development-Culture, Education, and Health 演習A 演習B 演習C フィールドワーク グローバルインターンシップ 修士論文
		専	専
専	教授	築達 延征 〈令和2年4月〉 Ph. D. (Doctor of Philosophy) (米国)	築達 延征 〈令和2年10月〉 Ph. D. (Doctor of Philosophy) (米国)
		経営組織論 演習A 演習B 演習C フィールドワーク グローバルインターンシップ 修士論文	経営組織論 演習A 演習B 演習C フィールドワーク グローバルインターンシップ 修士論文
		専	専
専	教授	MAHARJAN, KESHAV LALL 〈令和2年4月〉 農学博士	MAHARJAN, KESHAV LALL 〈令和2年10月〉 農学博士
		Japanese Experience of Human Development-Culture, Education, and Health 農村開発論 国際協力論 演習A 演習B 演習C フィールドワーク グローバルインターンシップ International Environmental Cooperation Studies 修士論文	Japanese Experience of Human Development-Culture, Education, and Health 農村開発論 国際協力論 演習A 演習B 演習C フィールドワーク グローバルインターンシップ 修士論文
		専	専

専	教授	渡邊 聡 〈令和2年4月〉 DOCTOR OF PHILOSOPHY (米国)			
		開発ミクロ経済学I 開発ミクロ経済学II 労働政策論 公共管理論 演習A 演習B 演習C フィールドワーク グローバルインター ンシップ 修士論文			
専 (調)	准教授	後藤 大策 〈令和2年4月〉 博士(経済学)	専 (調)	准教授	後藤 大策 〈令和2年10月〉 博士(経済学)
		開発ミクロ経済学I 開発ミクロ経済学II 演習A 演習B 演習C フィールドワーク グローバルインター ンシップ 修士論文			開発ミクロ経済学I 開発ミクロ経済学II 演習A 演習B 演習C フィールドワーク グローバルインター ンシップ 修士論文
専	准教授	高橋 新吾 〈令和2年4月〉 博士(経済学)(米 国)	専	准教授	高橋 新吾 〈令和2年10月〉 博士(経済学)(米 国)
		開発計量経済学I 開発計量経済学II 労働政策論 演習A 演習B 演習C フィールドワーク グローバルインター ンシップ 修士論文			開発計量経済学I 開発計量経済学II 労働政策論 演習A 演習B 演習C フィールドワーク グローバルインター ンシップ 修士論文

専	准教授	高橋 与志 〈令和2年4月〉 博士（学術）	専	准教授	高橋 与志 〈令和2年10月〉 博士（学術）
		技術経営論 人的資源開発論			技術経営論 人的資源開発論 公共管理論
		演習A 演習B 演習C フィールドワーク グローバルインター ンシップ 修士論文			演習A 演習B 演習C フィールドワーク グローバルインター ンシップ 修士論文
専	准教授	山根 達郎 〈令和2年4月〉 博士（国際公共政 策）	専	准教授	山根 達郎 〈令和2年10月〉 博士（国際公共政 策）
		Hiroshimaから世界平 和を考える			Hiroshimaから世界平 和を考える
		演習A 演習B 演習C フィールドワーク グローバルインター ンシップ 修士論文			演習A 演習B 演習C フィールドワーク グローバルインター ンシップ 修士論文
兼任	教授	市橋 勝 〈令和2年4月〉 博士（理学）	専	教授	市橋 勝 〈令和2年10月〉 博士（理学）
		Japanese Experience of Social Development- Economy, Infrastructure, and Peace 開発マクロ経済学I 開発マクロ経済学II 経済統計分析論			Japanese Experience of Social Development- Economy, Infrastructure, and Peace 経済統計分析論
		演習A 演習B 演習C フィールドワーク グローバルインター ンシップ 修士論文			演習A 演習B 演習C フィールドワーク グローバルインター ンシップ 修士論文

兼任	教授	金子 慎治 〈令和2年4月〉 博士（工学）	兼任	教授	金子 慎治 〈令和2年10月〉 博士（工学）
		Japanese Experience of Social Development-Economy, Infrastructure, and Peace 持続可能な発展論基礎 環境政策論 国際協力プロジェクト演習 国際公務員実務演習A 国際公務員実務演習B 演習A 演習B 演習C フィールドワーク グローバルインターンシップ International Environmental Cooperation Studies 修士論文			持続可能な発展論基礎 環境政策論 国際公務員実務演習A 演習A 演習B 演習C フィールドワーク グローバルインターンシップ 修士論文
兼任	教授	吉田 雄一郎 〈令和2年4月〉 Ph. D (Economics) (米国)	兼任	教授	吉田 雄一郎 〈令和2年10月〉 Ph. D (Economics) (米国)
		Japanese Experience of Social Development-Economy, Infrastructure, and Peace 開発計量経済学I 開発計量経済学II 都市経済学 演習A 演習B 演習C フィールドワーク グローバルインターンシップ International Environmental Cooperation Studies 修士論文			Japanese Experience of Social Development-Economy, Infrastructure, and Peace 都市経済学 演習A 演習B 演習C フィールドワーク グローバルインターンシップ 国際協力プロジェクト演習 修士論文

兼担	教授	藤原 章正 〈令和2年4月〉 博士（工学）
		Developing Designing Ability International Environmental Cooperation Studies
兼担	教授	川野 徳幸 〈令和2年4月〉 博士（医学）
		Hiroshimaから世界平和を考える
兼担	教授	吉田 修 〈令和2年4月〉 法学修士
		Japanese Experience of Social Development-Economy, Infrastructure, and Peace
兼担	教授	坂田 桐子 〈令和2年4月〉 博士（学術）
		ダイバーシティの理解
兼担	教授	大池 真知子 〈令和2年4月〉 博士（人文科学）
		ダイバーシティの理解
兼担	教授	河合 幸一郎 〈令和2年4月〉 医学博士
		Hiroshimaから世界平和を考える
兼担	教授	中坪 孝之 〈令和2年4月〉 理学博士
		Hiroshimaから世界平和を考える
兼担	教授	張 峻屹 〈令和2年4月〉 博士（工学）
		Japanese Experience of Social Development-Economy, Infrastructure, and Peace
		International Environmental Cooperation Studies

兼担	教授	藤原 章正 〈令和2年10月〉 博士（工学）
		Developing Designing Ability International Environmental Cooperation Studies
兼担	教授	川野 徳幸 〈令和2年10月〉 博士（医学）
		Hiroshimaから世界平和を考える
兼担	教授	吉田 修 〈令和2年10月〉 法学修士
		Japanese Experience of Social Development-Economy, Infrastructure, and Peace
兼担	教授	坂田 桐子 〈令和2年10月〉 博士（学術）
		ダイバーシティの理解
兼担	教授	大池 真知子 〈令和2年10月〉 博士（人文科学）
		ダイバーシティの理解
兼担	教授	河合 幸一郎 〈令和2年10月〉 医学博士
		Hiroshimaから世界平和を考える
兼担	教授	中坪 孝之 〈令和2年10月〉 理学博士
		Hiroshimaから世界平和を考える
兼担	教授	張 峻屹 〈令和2年10月〉 博士（工学）
		Japanese Experience of Social Development-Economy, Infrastructure, and Peace
		International Environmental Cooperation Studies

兼担	教授	清水 欽也 〈令和2年4月〉 P h. D. (米国)	兼担	教授	清水 欽也 〈令和2年10月〉 P h. D. (米国)
		Japanese Experience of Human Development-Culture, Education, and Health International Environmental Cooperation Studies			Japanese Experience of Human Development-Culture, Education, and Health 国際公務員実務演習 B
兼担	教授	田中 純子 〈令和2年4月〉 医学博士	兼担	教授	田中 純子 〈令和2年10月〉 医学博士
		Japanese Experience of Human Development-Culture, Education, and Health 医療情報リテラシー			Japanese Experience of Human Development-Culture, Education, and Health 医療情報リテラシー
兼担	教授	森山 (奥本) 美知子 〈令和2年4月〉 博士 (医学)	兼担	教授	森山 (奥本) 美知子 〈令和2年10月〉 博士 (医学)
		Japanese Experience of Human Development-Culture, Education, and Health			Japanese Experience of Human Development-Culture, Education, and Health
兼担	教授	馬場 卓也 〈令和2年4月〉 博士 (教育学)	兼担	教授	馬場 卓也 〈令和2年10月〉 博士 (教育学)
		Japanese Experience of Human Development-Culture, Education, and Health			Japanese Experience of Human Development-Culture, Education, and Health
兼担	教授	柳原 宏和 〈令和2年4月〉 博士 (理学)	兼担	教授	柳原 宏和 〈令和2年10月〉 博士 (理学)
		データリテラシー			データリテラシー
兼担	教授	工藤 美樹 〈令和2年4月〉 医学博士			
		医療情報リテラシー			
兼担	教授	有廣 光司 〈令和2年4月〉 博士 (医学)			
		医療情報リテラシー			
兼担	教授	粟井 和夫 〈令和2年4月〉 医学博士			
		医療情報リテラシー			

兼任	教授	三須 敏幸 〈令和2年4月〉 博士（理学）
		人文社会系キャリア マネジメント
兼任	教授	伊藤 孝夫 〈令和2年4月〉 博士（工学）
		MOT入門
兼任	教授	久保 達彦 〈令和2年4月〉 博士（医学）
		医療情報リテラシー
兼任	准教授	カ石 真 〈令和2年4月〉 博士（工学）
		調査方法論基礎 International Environmental Cooperation Studies
兼任	准教授	小宮山 道夫 〈令和2年4月〉 修士（教育学）
		Hiroshimaから世界平 和を考える
兼任	准教授	（ヘイズ）櫻井 里 穂 〈令和2年4月〉 博士（教育理論政策 学） （米国）
		ダイバーシティの理 解
兼任	准教授	宮尾 淳一 〈令和2年4月〉 工学博士
		データリテラシー
兼任	准教授	森野 豊之 〈令和2年4月〉 博士（医学）
		医療情報リテラシー

兼任	教授	三須 敏幸 〈令和2年10月〉 博士（理学）
		人文社会系キャリア マネジメント
兼任	教授	伊藤 孝夫 〈令和2年10月〉 博士（工学）
		MOT入門
兼任	教授	久保 達彦 〈令和2年10月〉 博士（医学）
		医療情報リテラシー
兼任	教授	保田 浩志 〈令和2年10月〉 博士（工学）
		Hiroshimaから世界平 和を考える
兼任	教授	吉村 健一 〈令和2年10月〉 博士（保健学）
		医療情報リテラシー
兼任	教授	三原 直樹 〈令和3年4月〉 博士（医学）
		医療情報リテラシー
兼任	准教授	カ石 真 〈令和2年10月〉 博士（工学）
		調査方法論基礎 International Environmental Cooperation Studies
兼任	准教授	小宮山 道夫 〈令和2年10月〉 修士（教育学）
		Hiroshimaから世界平 和を考える
兼任	准教授	（ヘイズ）櫻井 里 穂 〈令和2年10月〉 博士（教育理論政策 学） （米国）
		ダイバーシティの理 解

兼任	准教授	大上 直秀 〈令和2年4月〉 博士（医学）
		医療情報リテラシー
兼任	准教授	牧野 恵美 〈令和2年4月〉 PhD（Management） （米国）
		アントレプレナー シップ概論
兼任	准教授	李 漢洙 〈令和2年4月〉 博士（工学）
		Developing Designing Ability International Environmental Cooperation Studies
兼任	准教授	久保田 徹 〈令和2年4月〉 博士（工学）
		International Environmental Cooperation Studies
兼任	准教授	保坂 哲朗 〈令和2年4月〉 博士（農学）
		International Environmental Cooperation Studies
兼任	准教授	TRAN DANG XUAN 〈令和2年4月〉 博士（農学）
		International Environmental Cooperation Studies

兼任	准教授	大上 直秀 〈令和2年10月〉 博士（医学）
		医療情報リテラシー
兼任	准教授	牧野 恵美 〈令和2年10月〉 PhD（Management） （米国）
		アントレプレナー シップ概論
兼任	准教授	李 漢洙 〈令和2年10月〉 博士（工学）
		Developing Designing Ability 国際協カプロジェクト演習 International Environmental Cooperation Studies
兼任	教授	久保田 徹 〈令和2年10月〉 博士（工学）
		International Environmental Cooperation Studies
兼任	准教授	保坂 哲朗 〈令和2年10月〉 博士（農学）
		国際協カプロジェクト演習 International Environmental Cooperation Studies
兼任	准教授	TRAN DANG XUAN 〈令和2年10月〉 博士（農学）
		International Environmental Cooperation Studies
兼任	准教授	友次 晋介 〈令和2年10月〉 博士（法学）
		Hiroshimaから世界平 和を考える
兼任	准教授	VAN DER DOES LULI 〈令和2年10月〉 PhD（Social Sciences） （英国）
		Hiroshimaから世界平 和を考える

兼任	助教	ISLAM MOINUL 〈令和2年4月〉 博士（工学） リサーチメソッド
兼任	助教	SIMANGAN DAHLIA COLLADO 〈令和2年4月〉 Doctor of Philosophy（オース トラリア） グローバルガバナンス論
兼任	助教	伊藤 岳 〈令和2年4月〉 博士（学術） 社会科学のための数理・計量分析
兼任	助教	張 潤森 〈令和2年4月〉 博士（工学） Geographic Information System Technology
兼任	助教	北梶 陽子 〈令和2年4月〉 博士（文学） ダイバーシティの理解

兼任	准教授	福井 敬祐 〈令和3年4月〉 博士（理学） データリテラシー
兼任	准教授	SIMANGAN DAHLIA COLLADO 〈令和2年10月〉 Doctor of Philosophy（オース トラリア） グローバルガバナンス論
兼任	准教授	NIRAJ PRAKASH JOSHI 〈令和2年10月〉 博士（学術） 国際協力論 農業生産経済分析 Developing Designing Ability
兼任	准教授	中矢 礼美 〈令和2年10月〉 博士（教育学） International Environmental Cooperation Studies
兼任	准教授	丸山 隆央 〈令和2年10月〉 修士（経済学） 国際公務員実務演習B
兼任	講師	三木 大樹 〈令和2年10月〉 博士（医学） 医療情報リテラシー
兼任	助教	伊藤 岳 〈令和2年10月〉 博士（学術） 社会科学のための数理・計量分析
兼任	助教	張 潤森 〈令和2年10月〉 博士（工学） Geographic Information System Technology
兼任	助教	北梶 陽子 〈令和2年10月〉 博士（文学） ダイバーシティの理解

兼担	助教	SHARIFI AYYOUB 〈令和2年4月〉 博士（工学）
		都市政策論

兼担	准教授	SHARIFI AYYOUB 〈令和2年10月〉 博士（工学）
		都市政策論 International Environmental Cooperation Studies
兼担	助教	赤瀬 大 〈令和3年4月〉 博士（理学） データリテラシー
		RAMASAMY SARAVANAKUMAR 〈令和3年4月〉 博士（数学） （インド） データリテラシー
兼担	助教	服部 稔 〈令和2年10月〉 博士（学術） ストレスマネジメント
		VU HA THU 〈令和2年10月〉 博士（学術） リサーチメソッド
兼担	助教	TRAN ANH DUC 〈令和3年4月〉 博士（学術） リサーチメソッド
		CARO BURNETT JOHANN 〈令和2年10月〉 Ph. D (Economics) （米国） 公共経済論
兼担	助教	VARGHESE VARUN 〈令和3年4月〉 Doctor of Philosophy （インド） 調査方法論基礎
		AHANA SARKAR 〈令和3年4月〉 Doctor of Philosophy （インド） International Environmental Cooperation Studies
兼担	助教	TROSELJ JOSKO 〈令和2年10月〉 博士（工学） International Environmental Cooperation Studies

兼任	教授	小笹 晃太郎 〈令和2年4月〉 博士（医学） 医療情報リテラシー
兼任	教授	田中 剛 〈令和2年4月〉 博士（医学） 医療情報リテラシー
兼任	教授	原田 淳 〈令和2年4月〉 博士（工学） ストレスマネジメント 理工系キャリアマネ ジメント
兼任	教授	楠田 哲也 〈令和2年4月〉 工学博士 環境原論A 環境原論B
兼任	准教授	目代 武史 〈令和2年4月〉 博士（学術） 経営戦略論

兼任	助教	吉野 宏志 〈令和3年4月〉 修士（言語学） 国際公務員実務演習B
兼任	教授	小笹 晃太郎 〈令和2年10月〉 博士（医学） 医療情報リテラシー
兼任	教授	原田 淳 〈令和2年10月〉 博士（工学） ストレスマネジメント 理工系キャリアマネ ジメント
兼任	教授	楠田 哲也 〈令和2年10月〉 工学博士 環境原論A 環境原論B
兼任	教授	志賀 賢治 〈令和2年10月〉 学士（法学） Hiroshimaから世界平 和を考える
兼任	教授	阿部 伸一 〈令和2年10月〉 学士（工学） 医療情報リテラシー
兼任	教授	森 玲子 〈令和3年4月〉 M.A(Social Science) 人文社会系キャリア マネジメント
兼任	教授	竹内 正興 〈令和3年4月〉 博士（教育学） 人文社会系キャリア マネジメント
兼任	准教授	目代 武史 〈令和2年10月〉 博士（学術） 経営戦略論

兼任	准教授	川田 恵介 〈令和2年4月〉 博士（経済学）	兼任	准教授	川田 恵介 〈令和2年10月〉 博士（経済学）
		データビジュアライ ゼーション A データビジュアライ ゼーション B			データビジュアライ ゼーション A データビジュアライ ゼーション B
兼任	講師	三角 幸子 〈令和2年4月〉 修士（経営学）			
		Japanese Experience of Social Development- Economy, Infrastructure, and Peace			
			兼任	講師	STYCZEK URSZULA MARIA 〈令和3年4月〉 博士(学術)
					Hiroshimaから世界平 和を考える

<グラーツ大学>

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
外国	教授 相当	Baumgartner, Rupert
		Master Seminar
		Master Thesis
外国	教授 相当	Stern, Tobias
		Master Seminar
		Master Thesis
外国	教授 相当	Füllsack, Manfred
		Data in System Science
		Seminar for Data in System Sciences
		Master Seminar
		Master Thesis
外国	教授 相当	Kirchengast, Gottfried
		Earth's Climate System and Climate Change
外国	准教 授相 当	Posch, Alfred
		The Sustainability Challenge
		Sustainability and Environmental Management
		Master Seminar
		Master Thesis
外国	講師 相当	Aschemann, Ralf
		Methods for inter- and transdisciplinary problem-solving
		Environmental and Technology Assessment
		Value Chain Management
		Master Thesis
外国	講師 相当	Gelbmann, Ulrike- Maria
		Waste and Recycling
		Strategic Sustainability Management

【令和3年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
外国	教授 相当	Baumgartner, Rupert
		Master Seminar
		Master Thesis
外国	教授 相当	Stern, Tobias
		Master Seminar
		Master Thesis
外国	教授 相当	Füllsack, Manfred
		Data in System Science
		Seminar for Data in System Sciences
		Master Seminar
		Master Thesis
外国	教授 相当	Kirchengast, Gottfried
		Earth's Climate System and Climate Change
外国	准教 授相 当	Posch, Alfred
		The Sustainability Challenge
		Sustainability and Environmental Management
		Master Seminar
		Master Thesis
外国	講師 相当	Aschemann, Ralf
		Methods for inter- and transdisciplinary problem-solving
		Environmental and Technology Assessment
		Value Chain Management
		Master Thesis
外国	講師 相当	Gelbmann, Ulrike- Maria
		Waste and Recycling
		Strategic Sustainability Management

外国	講師 相当	Paul, Arijit
		Sustainability Entrepreneurship Eco-Controlling
外国	講師 相当	Globocnik, Dietfried
		Product and Service Development
外国	講師 相当	Seebacher, Ulrike
		Social competences for working in inter- and transdisciplinary teams Social competences for managing sustainable development
外国 (調)	助教 相当	Brudermann, Thomas
		Sustainable Development – Integrating Perspectives Environmental Decision Making
		Research Project Sustainability Management
		Inter- and Transdisciplinary Case Study on Sustainable Development
		Master Thesis
外国	助教 相当	Rauter, Romana
		Sustainable Innovation Master Thesis

外国	講師 相当	Paul, Arijit
		Sustainability Controlling and Management
外国	講師 相当	Globocnik, Dietfried
		Product and Service Development
外国	講師 相当	Seebacher, Ulrike
		Social competences for managing sustainable development
外国	講師 相当	Hillmayer, Birgit
		Social competences for working in inter- and transdisciplinary teams
外国 (調)	助教 相当	Brudermann, Thomas
		Sustainable Development – Integrating Perspectives Environmental Decision Making
		Research Project Sustainability and Innovation Management
		Inter- and Transdisciplinary Case Study on Sustainable Development
		Master Thesis
外国	助教 相当	Rauter, Romana
		Sustainable Innovation Sustainable Business Models Master Thesis

外国	教授相当	Bauer, Wolfgang
		Renewable Resources - Chemistry and Technology I
外国	准教授相当	Stütz, Arnold
		Renewable Resources - Chemistry and Technology II

外国	教授相当	Bauer, Wolfgang
		Renewable Resources - Chemistry and Technology I
外国	准教授相当	Stütz, Arnold
		Renewable Resources - Chemistry and Technology II

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。**
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実み)、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和元年度開設であれば平成30年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

<広島大学>

【令和3年度】

<p>(専任教員関係(教員審査省略))</p> <ul style="list-style-type: none">・ 辞職のため担当から削除(渡邊 聡教授)・ 兼任教員から変更(市橋 勝教授) <p>(兼任教員関係)</p> <ul style="list-style-type: none">・ 専任教員に変更(市橋 勝教授)・ 兼任教員として就任(保田浩志教授, 吉村健一教授, 三原直樹教授, 友次晋介准教授, VAN DER DOES LULI准教授, 福井敬祐准教授, NIRAJ PRAKASH JOSHI准教授, 中矢礼美准教授, 丸山隆央准教授, 三木大樹講師, 赤瀬大助教, RAMASAMY SARAVANAKUMAR助教, 服部 稔助教, VU HA THU助教, TRAN ANH DUC助教, CARO BURNETT JOHANN助教, VARGHESE VARUN助教, AHANA SARKAR助教, TROSELJ JOSKO助教, 吉野宏志助教)・ 担当から削除(工藤美樹教授, 有廣光司教授, 粟井和夫教授, 宮尾淳一准教授, 森野豊之准教授, ISLAM MOINUL助教)・ 久保田徹准教授が教授に昇任・ SIMANGAN DAHLIA COLLADO助教が准教授に昇任・ SHARIFI AYYOUB助教が准教授に昇任 <p>(兼任教員関係)</p> <ul style="list-style-type: none">・ 兼任教員として就任(志賀賢治教授, 阿部伸一教授, 森玲子教授, 竹内正興教授, STYCZEK URSZULA MARIA講師)・ 担当から削除(田中 剛教授, 三角幸子講師)

<グラーツ大学>

【令和3年度】

<ul style="list-style-type: none">・ 担当教員の見直しにより, 講師相当1名(Hillmayer, Birgit)を追加した。
--

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**, 当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し, 大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
 - ・ なお, 設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は, 「教員審査省略」と記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和元年度開設であれば平成30年度)の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(注) ・ 本様式は、当該国際連携学科等に所属し授業科目を担当する専任教員（同一の学部又は研究科内の他の学科又は専攻の専任教員（研究指導教員等）が兼ねて担当する場合も含める）について記入してください。

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要研究指導教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数	完成年度時における設置基準上の必要研究指導補助教員数
5	4	4
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文科省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学院】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計（A）	助手（A'）	教授	准教授	講師	助教	計（B）	助手（B'）
6	4	0	0	10	0	6	4	0	0	10	0
(6)	(4)	(0)	(0)	(10)	(0)						
研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数	/			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数	/		
10	0	0				10	0	0			
(10)	(0)	(0)				(10)	(0)	(0)			
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計（C）	助手（C'）	教授	准教授	講師	助教	計（D）	助手（D'）
6	4	0	0	10	0	6	4	0	0	10	0
[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]
研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数	/			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数	/		
10	0	0				10	0	0			
[10]	[0]	[0]				[10]	[0]	[0]			

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、（ ）内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、**教員審査を要済済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数**を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告時（上記（B））の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記（C））の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65	0	0
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段階書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 []内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況（C）}}{\text{設置時の計画（A）}} = \frac{10}{10} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況（B）}} = \frac{0}{10} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況（C'）}}{\text{設置時の計画（A'）}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(注)・本様式は、当該国際連携学科等に所属し授業科目を担当する専任教員(同一の学部又は研究科内の他の学科又は専攻の専任教員研究指導教員等)が兼ねて担当する場合も含める)について記入してください。

(3) - ① 専任教員の就任辞退(未就任)の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退(未就任)の理由
		該当なし					

合計(D)				後任補充状況の集計(E)					
就任を辞退した教員数	担当科目数の合計(a)+(b)+(c)			①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)	
0	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注)・認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・「就任辞退(未就任)」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退(未就任)の理由」に就任辞退の理由等および()書きで報告年度を記入してください。
 - ・また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|--|

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退(未就任)の理由
1	教授	渡邊 聡	R3.3	選択	開発ミクロ経済学Ⅰ	①	R3.3.31 他大学へ就職のため辞任(3)
				選択	開発ミクロ経済学Ⅱ	①	
				選択	労働政策論	①	
				選択	公共管理論	①	
				選択	演習A	①	
				選択	演習B	①	
				選択	演習C	①	
				選択	フィールドワーク	①	
				選択	グローバルインターンシップ	①	
				選択	修士論文	①	

合計(F)				後任補充状況の集計(G)					
辞任した教員数	担当科目数の合計(a)+(b)+(c)			①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)	
1	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
	選択	10	科目	選択	10	科目	選択	0	科目
	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
	計	10	科目	計	10	科目	計	0	科目

- (注)・一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
- ・昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および()書きで報告年度を記入してください。
 - ・また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|--|

(3) -③ 上記(3) -① ・ (3) -② の合計

合計(D)+(F)			後任補充状況の集計(E)+(G)					
辞任等した教員数	担当科目数の合計(a)+(b)+(c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)	
1 人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
	選択	10 科目	選択	10 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
	計	10 科目	計	10 科目	計	0 科目	計	0 科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3)-③合計(D)+(F)}{(2)-②設置時の計画(A)} = \frac{1}{10} = \boxed{10} \%$$

(3) -⑤ 令和2年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

人

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由		
		該当なし						
合計			後任補充状況の集計					
辞任した教員数	担当科目数の合計(a)+(b)+(c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)	
0 人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

他の専任教員が実施するため、学生の履修等への影響はない。学生へは、ガイダンス及び個別指導により周知している。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画	
認 可 時 (令和元年)	協定の締結にあたっては、申請書に示されている内容を確実に反映させること。	遵守事項	申請書に記載した内容を反映させた協定書を締結した。 履行済	
	「SDGsに関する基礎的知識を身に付けている学生を入学試験の段階で書類選考により選別」するとしているが、どのような内容を書類選考で確認するのか明確でないため、学生が受験する際に不利益とならないように学生募集すること。	遵守事項	学生募集に際し、SDGsに関する基礎的知識として、「開発学・国際開発学に関する基礎的知識等」を確認する旨を本学ウェブサイトで周知した。その上で、入学者の選抜に当たっては、相手大学であるグラーツ大学の教員との第一次選考（合同入試）において、出願時の「志望理由書、履歴書、成績証明書」等を基に書類審査を双方の大学で行った。その後、第二次選考を実施し、提出された「研究計画書」等により、上記の基礎的知識を含め、アドミッション・ポリシーに適合する人物か否かの最終確認を行った。 履行済	

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<人間社会科学部 広島大学・グラーツ大学国際連携サステイナビリティ学専攻>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
	<p>本専攻に入学した学生（10月入学）は、ホーム大学で半年間学んだ後（第1セメスター）、相手大学において1年間修学し（第2・第3セメスター）、最終セメスターにホーム大学に戻り、修士論文を作成するスケジュールとなっているが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により渡航制限措置が取られたため、当初予定していた相手大学へ留学しての授業が実施できない状況となった。（第2セメスターの科目のうち、広島大学開設科目40単位（ベーシック科目14単位、専門科目26単位）、グラーツ大学開設科目15単位（専門科目）。）</p> <p>このため、計画を変更し、グラーツ大学に渡航予定であった広島大学をホーム大学とする学生と、広島大学に渡航予定であったグラーツ大学をホーム大学とする学生とともに、オンラインにより相手大学の科目を履修した。</p> <p>オンラインでの履修への変更にあたっては、本学とグラーツ大学で、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を踏まえた今後の方向性などについて協議を行い、両大学において第2セメスターの授業をオンラインや録画講義による対応とすることを確認した。また、双方の指導教員から各学生に対してオンラインで丁寧な説明を行うとともに、グラーツ大学をホーム大学とする学生に対しては、ヨーロッパ時間や録画講義でも受講が可能な科目を明示した時間割を配付した。</p> <p>オンラインでの履修にあたっては、課題に対する学習成果をオンラインで発表させ、学生同士の議論や教員からのアドバイスを受けられるようにする等の工夫を行った。</p> <p>なお、広島大学をホーム大学とする学生は、オーストリアの入国・居住許可書を取得し、令和3年7月末に渡航した。</p> <p>第2セメスターの開講科目のうち、学生が履修した科目は、「Strategic Sustainability Management」、 「Sustainability Controlling and Management」、 「Sustainable Innovation」、 「Value Chain Management」、 「Research Project Sustainability and Innovation Management」、 「International Environmental Cooperation Studies」である。</p> <p>「Value Chain Management」については、予定されていた現地視察旅行を取り止め、代替措置として外部講師による講義を実施した。</p> <p>オンラインでの履修にあたっては、対面授業に相当する教育効果を担保するため、以下の工夫を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 同時双方向型で、各回の授業に関する学生からの質問に回答するとともに、学生とのディスカッションを実施する回を設け、その内容を収録し、オンデマンド動画として配信した。時差等の事情で同時双方向型のディスカッションに参加できない学生に対しては、メールやチャットによる事前質問を受け付けた。 ・ 課題に対する学習の成果をオンラインで発表し、学生同士の議論や教員からのアドバイスを受けて最終レポートを作成させた。 <p>また、グラーツ大学では、Microsoft Teamsのチャット機能を利用して学生の意見を集め、課題に対する主な意見や分布などを講義中に紹介し、改めて意見をチャットに書き込んでもらったり、学生とのコミュニケーションツールとして、Moodieのフォーラム、チャット機能やuniMEETを使ったビデオ会議を活用した。</p>

なお、広島大学ではコロナ禍を受けて、授業等の実施に関する方針（教員向け）を作成し、オンライン授業において対面授業に相当する教育効果が得られるような授業の構成や実施方法の例を示すなどの対応をしている。

相手大学への留学ができなかったため、指導体制については、各学生に対し、ホーム大学の指導教員が相手大学の副指導教員と連携を取りながら、引き続き指導を行った。

グラーツ大学の事務局及び調整担当教員とメール又はオンラインにより、以下のとおり協議等を行った。

日時：令和3年1月15日（オンライン）

協議事項：令和2年10月入学者の履修の進め方と新型コロナウイルス感染症の拡大状況を踏まえた今後の方向性について協議を行った。

【グラーツ大学側】Brudermann Thomas助教、
Krawagna Ulrikeコーディネーター

【広島大学側】金子 慎治 専攻長

日時：令和3年2月12日～2月20日（メール）

協議事項：渡航・入国制限に関する情報交換及び日本とヨーロッパとの時差を考慮した対応等。双方の大学において、オンライン授業の提供準備が整っていることを確認した。

日時：令和3年3月2日（メール）

協議事項：新型コロナウイルス感染症の拡大による渡航制限により、各学生の修了予定時期に変更がないか、本人の意向を含め、確認を行った。

日時：令和3年3月10日～3月15日（メール）

協議事項：入国制限が解除されるまで、第2セメスターの授業をオンラインや録画講義による対応とすること、また、全ての科目をオンラインにより履修した場合でも、修了要件や修了予定時期には影響しないことを確認した。

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 大学設置基準第51条2項に規定されている携外国大学との「協議の場」について、実施状況（開催日・議題等）を記載してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

- ・人間社会科学研究科長室会議（構成員：13名）

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

- ・令和2年度：13回開催（概ね全員出席）

c 委員会の審議事項等

- ・管理運営面での重要事項

② 実施状況

a 実施内容

- ・全学FD研修会
- ・人間社会科学研究科FD
- ・新任教員のための研修会

b 実施方法

- ・全学で実施するFDへの参加
- ・研究科独自で実施するFDへの参加
- ・全学で実施する新任教員研修プログラムへの参加
- ・学生による授業改善アンケート

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・人間社会科学研究科FD
令和2年12月23日開催（参加教員数41名）
令和3年2月15日開催（参加教員数56名）
- ・新任教員のための研修会
新採用教職員研修，新任教員スタートアップ研修（参加新任教員数延べ23名）
令和2年度は，新型コロナウイルス感染拡大防止のため動画配信により実施

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・学生によるアンケート結果に基づき，授業の改善を図るとともにシラバスに反映させる。また，本専攻独自のFD実施に向けて，今後の検討を行う。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

- ・全学で実施する授業改善アンケートにより毎学期（ターム）終了時に実施した。

b 教員や学生への公開状況，方法等

- ・授業担当教員及び受講学生へは，学生情報システムを活用することにより集計結果の閲覧が可能となっている。

(注) ・「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

概ね当初の予定どおり順調に履行している。策定したアドミッション・ポリシーに基づき、両大学合同の入学者選抜を実施し、令和2年10月に広島大学をホーム大学とする学生、グラーツ大学をホーム大学とする学生各1名を受け入れた。今後は、カリキュラム・ポリシーに沿って学生の教育を行い、SDGs達成に向けた地域と世界の喫緊の課題に対して、社会科学的アプローチで研究や実務を遂行できる能力を有する人材を育成する。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・令和4年3月公表予定

b 公表方法

・本専攻の年次報告書を作成し、ウェブサイト上で公表予定

③ 認証評価を受ける計画

・令和5年度に独立行政法人大学改革支援・学位授与機構による大学機関別認証評価を受審予定

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和3年度）

a 公表予定の有無 [有]

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載]

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイトに公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。